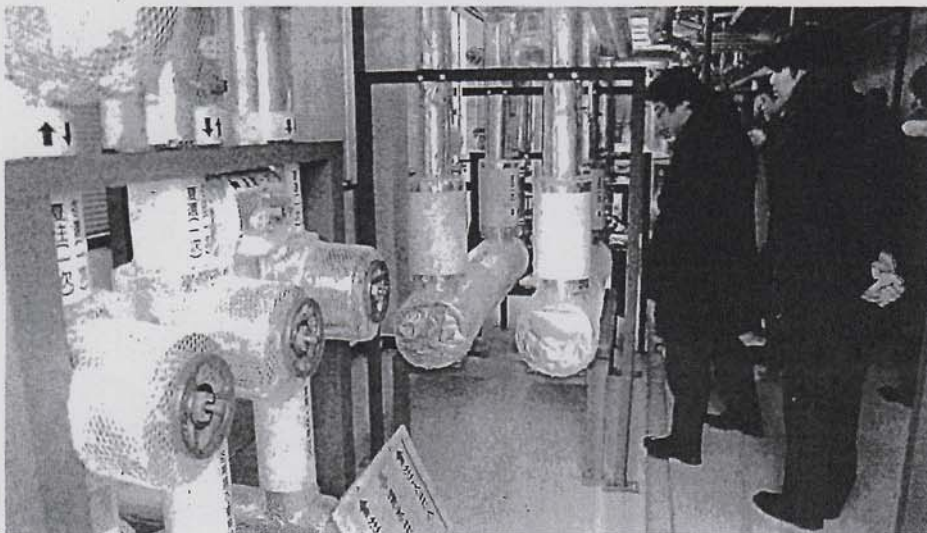


# 地下水熱 最新技術学ぶ

## 山形 全国の専門家集い研究会



ヒートポンプ蓄熱センター主催の「地下水熱利用とヒートポンプシステム研究会」が10日、山形市の日本地下水開発で開かれた。全国から地中熱・地下水熱利

用帯水層蓄熱冷暖房システムを見学する全国の参加者たち

山形市・日本地下水開発

用の専門家約70人が参加。本県や秋田県で実証事業が進められている地下水熱を活用した帯水層蓄熱冷暖房システムの最新技術や、研究成果などについて理解を深めた。

同研究会の会員である日本地下水開発が1983（昭和58）年から本社社屋で実践しているのが、帯水層蓄熱冷暖房システム。夏場は帯水層からくみ上げた外気より低い地下水を熱交換し冷房に活用、温度が上がった水を再び帯水層に戻す。逆に冬場は、温かい地下

水の熱を取り出し暖房や消雪に利用する仕組みだ。省エネや二酸化炭素の排出量削減、ヒートアイランド現象の抑制にも効果がある。

2011年度には環境省の地球温暖化対策技術開発・実証研究事業に採択。3年間の委託事業で、地下環境への影響評価やその軽減のための技術開発に取り組んできた。

この日は、共同で研究に

取り組んできた同社や秋田大、産業技術総合研究所の担当者が3年間の成果を披露。さまざまなデータを基に、地下水熱を利用したシステムは一般的な地中熱利用と比べエネルギー効率が優れていることや、地下水利用に適したエリアが広範囲にわたることなどが示された。また、参加者たちは同社内のヒートポンプシステムも見学した。